

目 次

報農後援会によせる辞	河野義明	(1)
作物の <i>in planta</i> 形質転換法	小島峯雄	(2)
館野幸三郎元理事長のご逝去を悼む	吉田孝二	(4)
ヒトデから植物ホルモンの一斉分析 38 年の回り道	神谷勇治	(6)
財報農会刊行図書を紹介		(9)
平成 19 年度事業報告及び収支計算		(10)
平成 20 年度事業計画及び収支予算		(11)
報農会平成 19 年度事業報告		(12)
育英費・奨学金受給者研究課題紹介		(13)
第 23 回報農会シンポジウムのお知らせ		(14)
役員名簿		(14)
編集後記		(15)
会員消息		(16)
特別会員名簿		(16)
育英会員名簿		(17)

作物の *in planta* 形質転換法

前信州大学 小島 峯雄

私は本年3月末に14年間お世話になった信州大学繊維学部応用生物科学科を定年退職しました。この機会に報農会に対する私のささやかな感謝の意も込めて、私が当大学で主に取り組んできた研究を紹介させていただきます。

現在、普及している植物（作物）の一般的形質転換法では *in vitro* 培養したカルスカ組織片に、*Agrobacterium tumefaciens* 菌を使って遺伝子が作物のゲノムに導入される。しかし、この一般的方法には問題点や短所もある。その主なものを挙げると、第一は長期間かかることである。第2は植物細胞の *in vitro* 培養中に体細胞変異がしばしば起こることである。さらに植物によっては植物個体の再生が困難であったり、不可能であることも大きな問題である。これらの問題点を克服するために、組織培養した細胞や組織でなく植物個体中の細胞に直接遺伝子を導入する形質転換法、すなわち *in planta* 法がいくつか報告されてきた。しかし、これらの方法には効率や再現性に問題があり、モデル植物のアラビドプシス（シロイヌナズナ）に対する”floral dip”法という *in planta* 形質転換法以外はほとんど使われていない。しかし、このfloral dip法は他の一般的植物（作物）には適用できない汎用性のない方法である。

そこで、我々は汎用性のある *in planta* 形質転換法を開発した。我々の方法の特徴は *A. tumefaciens* を植物のメリステム（分裂組織）に接種する点である。植物のメリステムは分化全能性を保持している組織であり、動物の胚性幹細胞（ES細胞）に匹敵する。このメリステムが全ての植物の茎頂、腋芽、根端に存在する。その上植物の表面近くに存在し、頑丈であるので、*A. tumefaciens* の接種も容易にできる。

我々はソバ、クワ、ケナフ、イネ、コムギ、トウモロコシ、ダイズに

対する *in planta* 形質転換法を開発した。我々の方法は非常に簡便である。ソバを例に取り、その概略を説明する。ソバ種子をポットに播種し、子葉が完全に展開するまで育てる。この実生の胚軸の先端の茎頂メリステムに針で傷をつけ、*A. tumefaciens* を接種し、3日間 22℃の暗所に保ち、その後明所で栽培し、種子をとるだけである。

上記の我々の方法で形質転換したところ、ほとんどの作物で数十%の形質転換効率が得られた。この効率は従来の *in vitro* 培養細胞を用いる方法の効率と比べると桁違いに高い値である。我々の方法がこのように高い効率を示す理由はたぶん、我々の方法が *A. tumefaciens* の自然状態の感染機構を再現しているからであろうと推測している。

植物の形質転換には本質的な問題がまだ未解決のまま残されている。それは導入遺伝子が染色体上の指定された部位ではなく、無作為な部位に挿入され、その上導入遺伝子の数も制御できないことである。この問題を解決するためには、実用可能な遺伝子標的法を植物の系でも開発することが急務である。

追記) 上記の我々の *in planta* 形質転換法に関心をお持ちの方は総説(生物工学会誌, 第85巻, 第2号, 57-62頁, 2007年)を御覧下さい。

館野幸三郎元理事長のご逝去を悼む

吉田孝二

館野幸三郎元理事長には平成20年3月9日胆嚢疾患のためご逝去されました。行年84才でした。永年に亘る（財）報農会へのご貢献に感謝し謹んで哀悼の意を表します。



ありし日の館野幸三郎元理事長

昭和35年9月に開催された報農会設立発起人会には7人の発起人の1人として参加され、昭和36年1月26日の設立に大きく貢献されました。日本特殊農薬製造（株）の要職にあつてご多忙中にも拘わらず、昭和56年から平成5年まで12年間もの間、理事として本会を指導され、特に平成3年から5年には理事長として本会の発展に寄与されました。また、平成5年理事長退任後も顧問として、一生を本会の進展にご尽力下さいました。感謝の他はございません。

平成に入って、バブル崩壊は報農会の経理を直撃し、運営は破滅の危機に見舞われました。若しこの時期に、時宜を得た館野幸三郎、八反田一三両理事の絶大なご援助がなければ、報農会の経理はバブル崩壊に呑み込まれてしまっていたことでしょう。バブル崩壊後超低金利時代でも着実に継続された報農会の充実した活動を思うとき、館野理事長の適切な運営上のご指導は忘れることが出来ません。深く感謝し、感動しておりました。また、温厚なお人柄から周囲の人望は篤く、物事の取り纏めも目立たない誠実な対応で見事でした。温和な平常心での対応が周囲に感動を与え、信頼されておられたのでしよう。

報農会でも、理事長就任時に、毎年重要な行事となっていたシンポジウムの開催を一時中止する案が一部の実行委員の間で考えられた

ことがありました。しかし、理事長は直ちに真摯な姿勢で静かに実行委員に語りかけられ、従来にも増して充実したシンポジウムの開催に盛り上げられました。ご人徳の致すところでした。重要な懸案では豊富な学識と経験から明解な方向、見解を出され、ご自身の意見としてズバリと述べられました。その一言で周囲は我に返って正確な状況を把握することが出来ました。決して一方的に押しつけるのではなく、穏やかに相手の気がつかない点を示して、納得の上で進んで賛同してもらうような纏め方でした。何時も側にいて、大変でも見習いたいこととっておりました。報農会の事業発展を支援するために、報農会の育英費を受けた学生が中心になって発足した報農後援会の若い方々にも、穏和な平常心で感動を与えておられました。

報農会の功労者表彰式後の懇親会で、多くの参加者のご歓談される温厚なご容姿が、また、ご自宅でお優しい奥様と庭木の花を愛でながら寛がれる愛情豊かなご尊顔が、未だに目に浮かんで忘れられません。ここに、ご生前の館野元理事長を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

ヒトデから植物ホルモンの一斉分析 38年の回り道

理研植物科学研究センター 生長制御グループ 神谷 勇 治

私が報農会の奨学金をいただいたのは東大農芸化学の修士の学生であった昭和45年からの2年間です。親から独立したくても育英会の奨学金は親の収入の関係でもらえなかったので、アルバイトで苦勞していた時に田村三郎先生に報農会を紹介していただき2年間支援していただきました。本当にありがとうございました。当時は田村研究室の池上晋先生（広島大学から現在は長浜バイオ大学学部長）のもとで海産ヒトデの放卵抑制物質の研究を行ないました。活性の本体は水溶性のステロイドサポニンで、酢酸エチルで抽出できる脂溶性の生理活性物質とは大分違っていました。植物防疫とは全く関係の無い海産動物の研究をしていたので、毎月中央区にあった報農会の事務所で奨学金をいただく時にはいつも心苦しく思っていました。でも、いつかは植物防疫に関連した研究をして恩返しをしなければいけないと心に留めていました。奇しくも現在の理事の塩澤宏康さんと同じ時期に支援をしていただいていたので、先日「ろまん報農」の原稿依頼の電話があった時には当時を懐かしく思い出しました。博士卒業後は理研の農薬合成第三研究室で働き始め、最初の5年間は酵母の接合フェロモンの研究をすすめました。田村先生の後には高橋信孝先生が理研の主任研究員に代わられて、先生の紹介でドイツのゲッチンゲン大学のGraebe教授のもとで植物ホルモンのジベレリン(GA)の生合成経路に関する研究をはじめたのが植物との出会いでした。私の学生時代はジベレリンの番号が増加していく時代で室伏旭先生がタケノコジベレリンとしてタケノコの煮汁からGA₁₉を単離構造決定したことは有名です。私がはじめたころには高等植物のGAの生合成でよくでてくるGA₅₃に番号がなく、13-hydroxy-GA₁₂と皆でよんでいました。GAの番

号は現在120を超えています。私は理研で農薬化学第三研究室、植物生活環研究室、フロンティアホルモン機能研究室、PSC生長制御研究室と研究室を変わり、その後GAの生合成研究を30年近く進めることになりました。思えば大学4年生の学園紛争で授業がなかった時にポーリング博士の α -ヘリックス、ワトソン・クリックの二重螺旋の本を読みながら、いつかは自分もタンパクの精製や遺伝子の機能を明らかにしたいと夢見ていました。高橋先生にジベレリンの生合成のテーマを与えられた時は、生合成経路の解明、生合成酵素の単離、酵素遺伝子のクローニング（当時はこの言葉を知らなかった）、遺伝子の制御の順番に研究を進めることを漠然と考えていました。自分が理研を退職する前に決してこれらのテーマは終わることは無いと思っていました。

ドイツでカボチャの未熟種子で生合成能力のあるセルフリー系で得た知識をもとに、日本に帰ると活性型のGAであるGA₁を生成できるセルフリー系を初めて調整しようとしてマメ科のエンドウやインゲンの未熟種子の研究を初めました。セルフリー系を調整する時にドイツでは生のエンドウのサラダを作ることに気がつき、自分も初めてエンドウの未熟種子を食べてみました。不思議なことに種子の甘いものはGA生合成酵素活性型高く、種子が成熟して酵素活性が弱くなると種子が苦くなることに気がつきました。実験室でテクニシャンの人にエンドウを生で食べて甘い時だけ酵素を作り、苦くなったら捨てるように言ったら、毎日楽しそうにエンドウを食べて実験をしていました。ちいさなことで誰も知らない秘密の発見があると嬉しいものです。エンドウやインゲンの未熟種子で多量のGAが生合成される生理学的意味は未だにわかりません。残念ながら未熟種子を茹でて枝豆として食べる大豆にはGAはわずかしかな含まれません。手軽に入手できる枝豆を材料として用いられれば実験は随分楽だったと思います。そ

の後、シロイヌナズナの中性子照射による遺伝子の欠損した矮性の突然変異体 *gal-3* の遺伝子の機能解析をDuke大学のTai-ping Sun教授と共同で進め、葉緑体に局在するGAの生合成酵素の遺伝子の機能解析にはじめて成功しました。この1994年の論文は私の論文として最も引用回数が高い論文で、今でも毎年引用され続けています。その後GAの生合成酵素は次々と私たちを含めた色々なグループによってクローニングされ、殆ど全てのGA生合成酵素遺伝子が明らかにされました。その中には以前には想像もしなかったエキソメチレンのエポキシ化酵素やカルボン酸メチル化酵素もあります。2005年からスタートした横浜の植物科学研究センターでは斉藤和季教授を迎えて植物のメタボローム解析が進められてきました。メタボローム解析では内生量の微量な植物ホルモンは通常の分析では検出できませんが、私たちのグループは安定同位体標識の内標を用いて全ての植物ホルモンを液体クロマトグラフィー・質量分析計で高感度測定のできる植物ホルモノーム解析のプラットフォームを立ち上げました。その結果、今では植物の病害抵抗性と深い関わりのあるジャスモン酸(JA)とサリチル酸(SA)の高感度分析の共同研究が数多く行なわれるようになりました。また、寄生雑草の発芽に微量で関与するストリゴラクトンの分析も最近始めました。奨学金をいただいて38年にして植物防疫に関連する研究を実際に行なう機会が与えられています。私のような動物の研究をしていた研究者さえも支えてくださった報農会の奥の深さに感謝しています。

(財) 報農会刊行図書を紹介

2008年 作物害虫防除のための主要殺虫剤

河野義明・池田二三高・古橋嘉一 著 (A4版、100ページ)

3年前に報農会で受託刊行致しました「作物病害防除のための主要殺菌剤」は、各方面より好評を得ております。そこで、更にこのシリーズを展開できないものかと何人かの害虫の専門家にご相談しましたところ、とんとん拍子に話しが進み「作物害虫防除のための主要殺虫剤」を刊行する運びとなりました。著者らは長年、応用動物昆虫学に関する研究及び農薬の開発に携わり、それらを通して得た豊富な経験と情報・知識を基に執筆されております。



ご購入の方には実費(¥3,000)で頒布の取り扱いをさせていただきます。ご氏名、ご住所を明記の上、E-メール、FAXなどで、下記までお知らせ下さい。本書と郵便振り替え用紙をお送りします。

財団法人報農会 〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-772 番地

TEL&FAX : 042-381-5455

E-メール : khono511@car.ocn.ne.jp

平成 19 年度事業報告

1. 会誌『ろまん報農』の発行・配布
『ろまん報農』第34号を6月に、第35号を12月に発行、全会員に配布した。
2. 報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョンー2007』“環境に調和した植物防疫”
(9月28日「北とびあ」つつじホール)の開催に当たり実行委員として協力した。
3. 報農会の運営を援助するため、30万円を普通財産用寄付金として寄付した。
4. 本年度は特別会員として3名が入会された。また、特別会員、育英会員各1名の訃報が届いた。

平成 19 年度収支計算 (自平成 19 年 4 月 1 日 至平成 20 年 3 月 31 日)

収 入 の 部				(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
会 費	470,000	290,000	△ 180,000	
育英会員会費	278,000	144,000	△ 134,000	
特別会員会費	192,000	146,000	△ 46,000	
賛助会員会費	0	0	0	
前 受 会 費	6,000	52,000	46,000	次年度以降会費
寄 付 金	50,000	175,000	125,000	
雑 収 入	625	825	200	預金利息
前 期 繰 越 金	428,375	428,375	0	
収 入 合 計	955,000	946,200	△ 8,800	
支 出 の 部				
科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
事 業 費	150,000	151,512	1,512	会誌発行
管 理 費	160,000	52,804	△ 107,196	
会議費	20,000	3,000	△ 17,000	
旅費交通費	10,000	0	△ 10,000	
通信運搬費	80,000	44,860	△ 35,140	
消耗品費	20,000	944	△ 19,056	
雑費	30,000	4,000	△ 26,000	
寄 付 金	300,000	300,000	0	(財)報農会へ
予 備 費	339,000	0	△ 339,000	
前 受 会 費	6,000	52,000	46,000	
次 期 繰 越 金	—	389,884	389,884	
支 出 合 計	955,000	946,200	△ 8,800	

平成 20 年 度 事 業 計 画

1. 会誌『ろまん報農』の発行・配布
『ろまん報農』第36号を6月に、第37号を12月に発行し、会員に配布する。
2. 財団法人報農会の諸事業（シンポジウム開催など）に協力し、植物防疫事業の推進にあたる。
3. 財団法人報農会の運営を支援するための寄付を行い、その事業推進に資する。
4. 会員増を図る一環として、植物保護関係者に会員への入会案内を機会をとらえて行う。

平成 20 年度収支予算（自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 21 年 3 月 31 日）

収 入 の 部		単位：円		
科 目	予 算 額	前年度予算額	比較増減	備 考
会 費	468,000	470,000	△ 2,000	
育英会員会費	272,000	278,000	△ 6,000	136 名
特別会員会費	196,000	192,000	4,000	98 名
賛助会員会費	0	0	0	（終身会員の会員を除く）
前 受 会 費	22,000	6,000	16,000	
寄 付 金	50,000	50,000	0	
雑 収 入	116	625	△ 509	預金利息他
前期繰越金	389,884	428,375	△ 38,491	
収 入 合 計	930,000	955,000	△ 25,000	
支 出 の 部				
科 目	予 算 額	前年度予算額	比較増減	備 考
事 業 費	150,000	150,000	0	会誌発行他
管 理 費	160,000	160,000	0	
会議費	20,000	20,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	80,000	80,000	0	
消耗品費	20,000	20,000	0	
雑費	30,000	30,000	0	慶弔見舞他
寄 付 金	300,000	300,000	0	（財）報農会へ
予 備 費	298,000	339,000	△ 41,000	
前 受 会 費	22,000	6,000	16,000	
支 出 合 計	930,000	955,000	△ 25,000	

財団法人 報農会 平成19年度事業報告

1. 植物防疫に関する学術・技術分野における専門家の育成

- (1) 育英費の支給：5名の大学院生に対し育英費を支給した。
- (2) 奨学金の供与：5名の農業大学校在學生（農家子弟）に対し、奨学金と賞状を贈呈した。

2. 植物防疫に関する学術・技術の交流

関係学会に対する援助：国際会議開催に伴う運営経費の一部を援助した。

3. 植物防疫の発展に寄与した功績者の表彰（第22回）

功績者の表彰式を平成19年9月28日に「北とぴあ」天覧の間で行い、以西信夫、小菅喜久彌、中野昭信の3氏に功労賞を贈呈した。

4. 植物防疫に関する公開シンポジウム（第22回）の開催

『植物保護ハイビジョン—2007』“環境に調和した植物防疫”をテーマとして9月28日に「北とぴあ」つつじホールで開催した。（参加者約170名）

講演

○IPMの推進・定着 ——これまでの取組と今後の課題 ——

農林水産省植物防疫課 大岡 高行

○ベトナムにおける植物防疫の取り組み

前茨城大学 永田 徹

○ポスト臭化メチル時代の土壌病害虫対策

野菜茶業研究所 西 和文

○GAPをめぐる課題（リンゴ輸出とGAP）

認定農業法人 片山リンゴ（株） 山野 豊

○特別講演：生物活性物質の探索 ——化学で探る生物の世界 ——

東京大学名誉教授 鈴木 昭憲

○情報紹介：技術士（植物保護）制度について

日本植物病理学会 技術士対応委員会 稲葉 忠興

5. 受託事業

- (1) 植物防疫関係者（岩田俊一氏）の自費出版に協力した。
- (2) 東京大学医科学研究所の委託により一般農家、農業関連企業を対象に植物病害虫に関する調査を実施し、アンケート用紙の配布・回収業務を行った。

6. その他の事業

- (1) 図書『作物害虫防除のための主要殺虫剤』（仮題）の刊行を企画し準備を始めた。
- (2) 報農後援会の事務を処理し、会誌『ろまん報農』第34・35号の発行を支援した。

育英費・奨学金受給者研究課題の紹介

1. 育英費

草島美幸（東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程）

『植物の全身獲得抵抗性に対する環境ストレス応答シグナルであるアブシジン酸が及ぼす影響の解析』

姫野未紗子（東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程）

『イネいもち病菌に感染する菌類ウイルスに関する研究』

原田俊幸（京都大学大学院農学研究科博士課程）

『生理活性化合物の構造と活性の関係についての研究』

久村由美子（島根大学大学院生物資源科学研究科修士課程）

『イネいもち病菌胞子の生成する高分子毒素の病理学的評価に関する研究』

モントーヤアルバレス アンドレスフェリペ（高知大学大学院農学研究科修士課程）

『施設栽培果菜類の重要害虫タバココナジラミの土着天敵による防除の研究』

2. 農家子弟奨学金

杉村賢史（北海道立農業大学校 畑作園芸経営学科）

『緑肥及び畑作物栽培による植物寄生性センチュウの動向調査』

原 雄介（神奈川県立かながわ農業アカデミー 生産技術課植木コース）

『発芽抑制系除草剤トレファノサイド粒剤の植木ポット苗施用』

奥平光浩（兵庫県立農業大学校 農産園芸課程花き専攻）

『カーネーションの摘心回数が切花生産に与える影響』

片山幸太（愛媛県立農業大学校 総合農学科野菜複合コース）

『環境に配慮した水稻アメニティ栽培』

有村耕平（鹿児島県立農業大学校 農学部茶業科）

『農薬による茶病虫害防除とクワシロカイガラムシ天敵の活動』

財団法人 報農会 役員名簿（平成20年6月1日現在）

理事長：岩本 毅

常務理事：塩澤宏康

理事：井上克信 梶原敏宏 河野義明 関口義兼 館野浩一

監事：上山功夫 松木三男

顧問：岩田俊一 八反田一三 福田秀夫 吉田孝二

お知らせ

第23回報農会シンポジウム『植物保護ハイビジョン-2008』

— 遺伝子組換え作物の現状と課題 —

*日 時 平成20年9月26日(金) 10~17時

*場 所 「北とぴあ」つつじホール(北区王子1-11-1)

シンポジウム終了後、16階「天覧の間」で第23回功績者表彰式と祝賀会が開催されます。

表彰者は伊阪實人(元福井県農事試験場)、石川元一(元埼玉県農業試験場)、石本 茂(元高知県農業試験場)の3氏です。是非ご出席下さい。

問い合わせ先 報農会事務局 TEL/FAX: 042-381-5455

報農後援会 役員名簿(平成20年度)

会 長: 河野 義明

常任理事: 井上 智 広(アグロカネショウ(株)) 塩 澤 宏 康((財)報農会)

重 野 武 夫(シンジェンタジャパン(株))

理 事: ◆東日本地区〈北海道・東北・関東・甲信越〉

古 市 尚 高(新潟大学)

◆中日本地区〈東海・北陸・近畿〉

景 山 幸 二(岐阜大学)

◆西日本地区〈中国・四国・九州〉

近 藤 栄 造(佐賀大学)

監 事: 日 比 忠 明(法政大学) 米 山 勝 美(明治大学)

顧 問: 荒 井 啓 上 村 英 雄 小 島 誠

編 集 後 記

今までに何回となく書いてきたのですが、減反政策の早急な廃止をこの紙面をお借りし会員の皆様にも訴えたく筆を取りました。日本人の主食である米を大切に、水田が国土保全及びダムの代わりとして役立っていることを認識していくべきです。

減反により稲作を放棄して荒れた田にしてしまいますと、それを水田に戻して米の生産が出来るまでに回復させるには大変な努力と年月を要します。稲作栽培が可能な水田は、日本人にとって守るべき固定財産であると思います。減反等というマイナス政策は今すぐ止め、可能な限り全ての農地で稲作をし、余剰米等は有効活用出来るような方策を講ずるべきでしょう。例えば、政府が余剰米を買い上げて、食料の乏しいアフリカや他の東南アジアの国々に無償援助をする等です。稲作を日本の農業生産の柱として進めて行けば、国土の疲弊も起きず、国土の保全更に水資源の確保にまで結びついていくと思います。ビバ日本！ビバ稲作！

今号に、原稿の執筆をお願いしましたところ、快く引き受けて下さいました会員の小島峯雄氏（巻頭言）と神谷勇治氏から近況報告を頂くことができました。また、元理事長の館野幸三郎氏が3月9日に他界され、吉田孝二氏より追悼文をお寄せいただきました。この紙面を借りてお三方にお礼申し上げます。

会員通信である「ろまん報農」の発行も末永く継続して行きたいと思っておりますので、会員の皆様の特段のご協力をお願い致します。会費につきましても今号の会計報告をご覧になるとお分かりいただけると思いますが、会費の納入状況が大変悪く本会の主旨である報農会に寄附する額を捻出するために、ここ数年苦慮致しておりますので、会員の皆様のご理解、ご協力を重ねて願う次第です。（塩澤宏康）

- 皆様のご支援に深くお礼申し上げます。
- 後援会費は年2,000円です。会費の一部は本会の主旨により「(財)報農会の発展」のために寄附させていただいております。
- 会報発行等の事業を円滑に進めるため会費納入について、皆様のご協力をお願い致します。
- お問い合わせ等は事務局まで。
- 郵便振替口座番号00140-1-121402

第36号 平成20年 6月30日発行
発行者 河野義明
発行所 報農後援会
〒187-0011 小平市鈴木町2-772
(社)日本植物防疫協会資料館内
TEL・FAX 042-381-5455

☆☆ [会 員 消 息] ☆☆

○農学賞に輝く育英会員

日比忠明氏（東京大学名誉教授、報農後援会監事）には、日本農学賞（読売農学賞）を受賞され4月5日、東京大学山上会館で授賞式が行われました。心からお慶び申し上げます。

受賞研究：植物プロトプラストの電氣的細胞操作法の開発とその植物ウイルス研究への応用

○学会長に就任の特別会員

露無慎二氏（静岡大学農学部教授）には、平成20年度日本植物病理学会大会において学会長に就任されました。ご活躍をお祈り申し上げます。

○訃報 育英会員 緒方行治氏（平成20年1月3日逝去）

特別会員 館野幸三郎氏（平成20年3月9日逝去）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



報農後援会特別会員名簿 (20.6.1現在 110名)

天野 幸治	荒木 隆男	有本 裕	池庄司敏明	池田二三高	伊藤 嘉昭
稲葉 忠興	井上 忠男	岩井 久	岩田 俊一	上垣 隆夫	上山 功夫
内田 俊郎	梅田 芳春	瓜谷 郁三	遠藤 武雄	大内 成志	大川 義清
大畑 貫一	岡留善次郎	利部 伸三	加来 久敏	梶原 敏宏	加藤 肇
神田 昭夫	北 宜裕	国見 裕久	久能 均	久保 康之	藏納 久男
小林 義明	小原 裕三	近藤 和信	後藤 哲雄	佐久間 勉	重松 喜昭
獅山 慈孝	篠原 正行	下村登志雄	管原 敏夫	杉野多萬司	鈴木 昭憲
鈴木 健	鈴木昭治郎	諏訪内正名	関口 義兼	多賀 正節	高久 恒夫
高田 昌稔	高橋 史樹	高橋 信孝	高橋 英樹	瀧川 雄一	武市 敏男
竹田 勇	多々良明夫	田付 貞洋	館野 浩一	田中 敏夫	谷口 武
田畑 勝洋	田濱 康夫	田村 多利	土崎 常男	土屋 健一	都築 詢
露無 慎二	寺岡 徹	寺中 理明	藤條 純夫	仲井まどか	仲川 正義
中北 宏	中村 廣明	成田 直樹	根本 久	橋本 晃	早川 充
原田 達夫	平井 一男	平塚 利子	平野 恒	古市 尚高	古澤 巖
古橋 嘉一	堀川 知廣	牧野 孝宏	松本 義明	松山 宣明	満井 喬
宮川 経邦	宮田 正	務川 重之	室伏 旭	八木 繁実	矢野 文雄
山岡 直人	山口 勇	山下 功	山下 修一	山田 忠男	山中 達
山根 久和	山本 出	横田 孝雄	吉田 孝二	吉野 嶺一	米山 伸吾
與良 清	脇本 哲				

報農後援会育英会員名簿 (20.6.1現在 136名)

() 内は年次順番号

桜井 成(2)	安田 康(4)	小泉 銘冊(6)	谷口 尚温(7)	小島 誠(8)
上村 英雄(9)	池上 晋(11)	永田 徹(12)	中山 勇(15)	岡田 大(18)
林 士珍(19)	小嶋 昭雄(20)	善林 六朗(21)	荒井 啓(28)	桜井 宏紀(29)
大橋 祐子(30)	伊藤 達也(37)	櫛下町鉦敏(32)	木村 滋(33)	川田 雅昭(35)
道家 紀志(36)	小島 峯雄(37)	盛一 嘉則(39)	林 茂(40)	山崎 素直(41)
廬 耀村(45)	児玉 吉勝(46)	岡本 恵勝(47)	米山 勝美(49)	河野 義明(50)
近藤 栄造(51)	汐崎 正生(53)	本間 善久(54)	湯本 悦次(55)	浜村 徹三(56)
宇佐美 進(57)	中野 昌俊(61)	本田要八郎(62)	重光 善弘(65)	松本 勤(67)
重野 武夫(68)	本山 直樹(71)	塩澤 宏康(72)	平井 正志(79)	大内 晴(80)
田代 茂喜(84)	森 章夫(85)	与那覇哲義(86)	守山 義明(88)	神谷 勇治(89)
板倉 勝孝(90)	山口 堯士(91)	山口 裕紀(92)	井上 智広(93)	小林 紀彦(94)
仲谷 房治(96)	合田 健二(97)	日比 忠明(99)	大嶋 保夫(101)	芦原 亘(102)
桜井 勇(103)	松下 一信(105)	明田 功(106)	吉川 博道(108)	橋本 伸一(109)
倉持 正実(110)	宇郷 裕三(111)	佐藤 五月(115)	伊藤 高明(116)	今野 清隆(118)
古川いくよ(120)	小金澤碩城(122)	小野 知洋(126)	林 三徳(129)	落合 進(131)
廣岡 芳年(133)	野田 博明(135)	大塚 公人(136)	武田 敏夫(139)	加藤 重博(140)
松本 公夫(142)	矢野 栄二(144)	渡辺 司(147)	安田 誠(148)	井上 博雅(149)
中川 仁(153)	上運天 博(156)	小作 明則(159)	久場 洋之(161)	向畠 博行(162)
景山 幸二(165)	尾崎 政博(166)	川原 圭生(171)	松尾 憲総(172)	名和 哲夫(176)
奥田 隆(178)	橋本 恵子(179)	嶋田 正和(180)	川北 一人(181)	鳴海 金吾(182)
門馬 孝之(184)	横山 和成(186)	若山 健二(187)	斎藤弥生子(189)	柘植 尚志(191)
藤巻 伸一(195)	沢辺 京子(197)	舩城 衛介(200)	黄 思良(205)	大海みゆき(206)
諸岡 直(207)	河合 守雄(208)	榊原 隆(209)	梁 泳烈(210)	郡嶋 浩志(212)
長門 涉(213)	張 蘊恵(217)	廬 聖煥(219)	藤田 昭彦(221)	布目 司(222)
吉賀 豊司(224)	崔 用華(225)	田中 弘幸(226)	王 敬銘(227)	大島 由行(230)
門 宏超(232)	カルニンチ寛子(233)	長岡 真帆(236)	大野 彩(237)	和田 行央(241)
中村 正幸(243)	瀧 瑞人(244)	成田 匡邦(246)	加藤 ハナ(250)	藤田 景子(251)
高橋 祐子(259)				